

令和2年 6月 3日

公益財団法人日本バドミントン協会

## 代表活動実施ガイドライン

代表活動にあたり、下記のガイドラインを制定する。

代表活動にかかわるすべての関係者（選手、コーチ、トレーナー、NTC 常勤スタッフ、協会スタッフ等）とし感染拡大防止のため、各項目を守り参加する。

### 記

#### I 強化事業（強化合宿）

##### 1. 合宿前に関して

- 体温・体調の状況、主な行動を日次で記録し、体調管理アプリに入力する。
- 飛行機や新幹線などの公共交通機関を利用する際は、マスク着用と石鹸による手洗い（手指アルコール消毒）による手指消毒をする。
- 周囲との間隔（フィジカルディスタンス）を意識的に取るように心がける。
- 合宿参加前に体調に異変を感じた時は、参加を取りやめて経過観察を行い、その後の症状によっては医療機関の診察を受ける。
- 緊急事態宣言（特別警戒地域）や感染者数に応じて各自治体が県外への移動制限を行っている地域からの参加は事前に連絡し、本会与協議の上で決定する。

##### 2. 体育館に関して

- 体育館での練習は、本会ガイドラインの『2章バドミントンの段階的な競技実施についてのステップ』に沿って活動するが、参加者の活動拠点と確認しながら練習内容を決定する。
- 密な環境とならないよう、一度に練習する人数の調整のために各種目・男女ごとに分けて行うなど、従来の実施形態にとらわれず少人数グループで練習計画を策定し活動する。
- NTC 内の TR での NTC 常勤スタッフに関しても、在室時にはマスクを常時着用し飛沫感染防止に努め、共用物の定期的な消毒を行う。
- TR 内での3密（密集・密接・密閉）を避けるため、同時に入ることができる人数を5名程度とする。

### 3. 合宿参加時の遵守事項

- 毎朝、宿泊部屋を出る前に体温を測り、体調項目とあわせて体調管理アプリ入力する。
- 練習前、体調に異変を感じた場合、宿泊部屋で待機し、電話等でコーチ・トレーナーに連絡するとともに、医療機関（JISS クリニック・最寄りの医療機関）に相談し指示を受ける。その後の経過を随時報告する。コーチ・トレーナーは本会事務局に報告する。
- 合宿中のミーティングや研修は3密を避けるため、十分な距離を確保できる会場やオンライン等で行う。
- 各施設への移動時にはマスク着用、消毒などの基本的な予防行動を実施する。
- 施設だけでなく、練習グループごとに消毒できるよう消毒液などを準備する。
- 体育館のドアを常時開放（接触感染予防としてドアに触れない）する。
- 練習場の換気は空調利用に加え、窓・扉を開放し、随時行う。
- 各自の宿泊部屋では、窓の開放など定期的な換気を行う。
- 宿泊部屋と体育館間の移動は集団ではなく個人で行う。
- 周囲との間隔を最低1m、できれば2m以上開けるようにする（練習時も同様）。
- 密を避けるためエレベータの利用はできるだけ避け、階段を利用する。
- ウォーミングアップは選手同士の間隔を意識的にとり、二人一組のメニューは行わない。
- ランニング時には、並走や斜め後方で行うなど周囲との距離を通常よりも意識的に取るようにする。
- コーチは指導をマスク着用で行い、横に並ぶなど対面では行わない。
- 体育館内では、大声を出さない。
- 休憩中は選手・コーチ・トレーナー間の距離を保ち、マスクを着用して会話する。
- 選手・コーチ・トレーナー間の接触（握手、ハイタッチ等）は避ける。
- メディカルケア等は消毒、マスク着用、タオル利用など感染防止対策をしたうえで行う。
- 共用の施設は使用せず、更衣室やシャワーなどは各自宿泊部屋のものを使用する。
- レストラン入口で手洗い（手指アルコール消毒）を行い、食事直前までマスクを着用する。また、食事を行う時は利用者間の距離を確保し、近くなる場合には、対面を避け横並びもしくは斜め前に着席する。施設が混雑している時は、無理をせずに時間調整する。
- 就寝前に体温を測り、体調管理アプリに入力する。
- 不要不急の外出は原則禁止とする（緊急時にはコーチ・トレーナーに要相談）。
- 合宿活動中は外部の人との接触は避ける（緊急時にはコーチ・トレーナーに要相談）。

### 4. 合宿後に関して

- 合宿後、新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、コーチ・トレーナーを通じて本会に速やかに報告する。

## II 派遣事業（国際大会の海外派遣等）

- 外務省の海外安全情報、世界バドミントン連盟（BWF）の発信情報などにに基づき時期および内容について検討し公表する。

## III その他

- 発熱・咳・倦怠感などの症状や体調が思わしくないなど、感染が疑わしい場合は、自主的に合宿、遠征の参加を見合わせる（判断に迷う場合には、コーチ・トレーナーに相談する）。
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合は、合宿、遠征の参加を見合わせる。
- 協会スタッフの感染のリスクを踏まえ、不要不急の業務は在宅勤務を継続する。また、打ち合わせ等は、原則オンラインとし、やむを得ない場合には最低限の人数と時間で対面にて行う。
- 不安や心配事があればコーチ・トレーナーに相談する。

以 上